

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成29年(2017年)

8-9月号

(通巻 171号)

2017年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

スズメガの蛹(さなぎ)
昆虫の蛹は、成虫の体の部品が行儀よくまとまった外見です。眼や口や触角が鑄型のようになっています。

- | | | | |
|--------------|-----------------------------|----|-------------------------------|
| P1 | ☀️ いきもの写真館 スズメガの蛹(さなぎ) | P5 | ☀️ 街かど自然探訪 広尾・防災公園の船着き場 |
| P2 / 3 | ☀️ 長田谷津を解剖する 埋まる池、埋まらない池 | | ☀️ くすのきのあるバス通りから 雨が少なかった |
| P4 | ☀️ 身近なところに花鳥風月 ゴーヤー | P6 | ☀️ 展示室 飼育生物の話題 アカニシの産卵と卵のう |
| | | P7 | ☀️ わたしの観察ノート 5月~6月の記録 |
| | | P8 | ☀️ 行事案内 |

長田谷津を解剖する

埋まる池、埋まらない池

埋まってしまった池

長田谷津にはいくつかの池がありますが、現在見られるほかに、かつては観賞植物園（温室）の前に、細長い大きな池がありました。この池はコイを泳がせるために掘られたと聞いていますが、現在では跡形もありません。すっかり埋まってしまい、かつて池の中央にあった橋だけがいまも園路として残ります（写真01）。

池が埋まる過程は、大雨の時の土砂の流入で年々浅くなり、そこにヨシやマコモなどの植物が生えることで進みます。植物は土砂を止め、さらに枯れた茎葉を堆積し、一気に陸化します。

この池の造成時期については記録が残っていませんが、1981年の航空写真には池の姿はまだ無く、1989年の写真では完全な形の池が写っています。その後1993年の航空写真では中央の橋の上流半分が草地と

なり、2002年の写真ではほぼ完全に無くなっています。つまり池が掘られてから完全に埋まるまで20年も経っていないわけです。

埋まりつつある池

バラ園に隣接してある池は1987年に掘られました。掘削当初は自然保護団体の異議に対して「雨水の調整池として掘った」と説明していたようですが、実際は、バラ園を作るための埋め立て用土を取った跡の穴です。池が大きいと埋まるのに時間がかかっていますが、30年経った現在、上流側がコイの背中が出るくらい浅くなり、植えてあったコウホネとミツガシワの群落が広がり、ついにはマコモが侵入しました（写真02）。池の上流半分が草地に姿を変えるまでに、あと10年は要しないと思われます。カワセミの撮影で人気があった場所ですが、これから景観が激変することになり

2017年



1986年



図 01 観賞植物園前にあった池

現在（2017年）の状態はうっそうとしたアシ原（左写真）。20年前には広々とした水面が青空を映し（右写真）、色とりどりのコイが泳いでいた。

2017年



1989年



写真02 バラ園に隣接する池

現在（2017年）は、岸からコオホネとミツガシワが地下茎を伸ばして広がり、一部にマコモが生えた状態（左写真）。20年前は満々と水をたたえていた（右写真）。

なります。

埋まらない池

長田谷津の中央部に「三角池」と呼ばれる池があります。これは長田谷津の右岸（西側）の枝谷の出口（枝分かれした谷がメインの谷に合流する場所）に掘られた池で、以前には無かったそうですが1981年の航空写真にははっきり写っています。観賞植物園前の池が完全に埋まるのと同じ期間を経た現在も健在で、浅くなる兆候すら



写真03 三角池

現在も一定の水深が維持され、長田谷津の池としてはもっとも安定している。

ありません。この池は流入する水路が無く、地下水が池に直接湧き出しています。池の周囲も植林地として長く安定的に維持されていて、それらのことが流入する土砂を抑えていると考えられます。

長田谷津の北端にも池があります。ここにはかつて民家と養魚池があり、その後公園化に際して湿地を埋め立て庭園風に仕上げた場所です。コイが泳ぐ池を作ったものの、湿地を埋め立てて周囲の湧水と水の行き来を断ち切ったため、水源としては地下深くの水をポンプアップ（一部、自噴もある）して池に流し込んでいます。理屈では土砂の流入はないはずですが、近年の豪雨の際には庭園風に埋め立てた土砂が削られて流れ込んでいます。やがて埋まってしまうかもしれません。

長田谷津の池が埋まるメカニズムは単純です。池を掘るにしても水路を整備するにしても、その後の流入土砂を排除するプランが無ければ、結局、元のアシ原に戻っていくことになります。



ゴーヤー

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を、
このコーナーでは紹介しています。

ゴーヤーをネットに這わせる「緑のカーテン」は
すっかり定着したようです。

毎日のようにながめていると、緑のカーテンを
いろいろな生き物が訪れていることに気づきます。

マルハナバチやミツバチのなかま、アブのなかま、
シジミチョウやセセリチョウ、アゲハチョウのなかまは花を訪れ、
ハラビロカマキリやニホンカナヘビは獲物を探してつるを登ります。

ナツアカネなどのトンボが翅を休めることもあります。
カーテンのおかげで、狭い庭がいろいろな生き物でにぎわいます。



街かど自然探訪

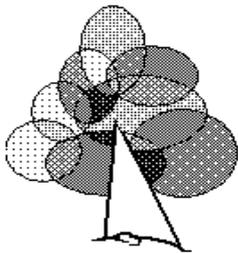
おじゃまします!

ひつや 広尾・防災公園の船着き場

行徳地域を流れる旧江戸川は、川のように見ようと思っても、高い堤防の上から水面をのぞくだけで、水辺に近づける場所がありませんでした。広尾防災公園の整備に伴い、隣接する堤防の内側、川の側に船着き場が造られました。ふだんは自由に入ることができます。魚の姿が見えないかと期待したのですが、残念ながらこの日は水が濁っていて、釣りをしている人たちも暇そうでした。



△広尾防災公園に隣接する船着き場
右側の白いフェンスは堤防の上の道。正面は今井橋。
中央の斜路を下ると、水面近くまで行くことができます。



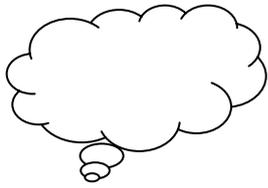
くすのきのあるバス通りから No.113

雨が少なかった

春から雨量が少なく、荒川水系は取水制限だそうです。「浦山ダムの底のかつて使われていた道路が露わになった」とニュースで見ました。湛水の前まで、毎年夏にキャンプをしていた場所でした。冷たい川の水、カジカガエルの声、夜中に空き缶を漁るケモノの気配を思い出しました。市川でも雨が少ししか降らず、我が家の雨水タンクも水やりに使って半分になってしまいました。葉の先が黄色くなった桜の根元までホースをつないで、思い切って全部使おうと思いました。タンクの下の方の横についた蛇口の高さで止まっ

てしまい、計画倒れでした。利根川水系からの水は余裕があるようで、上水道は給水制限になっていません。真間川をのぞいてみると相変わらずの水量でした。雨水が源の上流からの水と、家庭からの排水なのかと思いました。護岸の中ほどの隙間からアレチハナガサやイの仲間が生えていました。7月26日に久しぶりに雨が降り、メールで大雨洪水注意報が来ました。次の日、草たちは泥水を被ったらしく白くなっていました。満潮時に見ると水がちょうど根元に来ていました。浮いて流れてきた種が根付いたのかもしれませんが。

(M. M.)



展示室

No.15

飼育生物の話題



アカニシの 産卵と卵のう

アカニシはサザエと同じくらいの、大きな巻貝です。肉食でアサリなどの二枚貝を襲って食べますが、水槽では冷凍のアサリやホンビノス（小さいもの）を与えて飼育することができます。餌を捕るときは活発で、のんびりとした巻貝のイメージとはずいぶん違って見えます。

春に海から届いたアカニシは水槽の中に入れても元気で、よく動きよく食べていました。やがて細長い卵を産み始め、同居していたカニが卵を食べるのでアカニシを別の水槽に移したら、今度はガラスのあちこちにたくさん産みつけました。

アカニシの卵は正確には「卵囊（らんのおう）」という袋で、その中に本当の卵が詰まっています。巻貝の卵囊には「海ほおずき」とか「貝ほおずき」と呼ばれるものがあり、種類によって形が違うので呼び名も違っていています。アカニシの卵囊は細長いので、ナギナタホオズキと呼ばれます。

白い半透明の卵囊をルーペで見ると、中身が透けて見えます。白い粒々がたくさんあって、時々動きます。卵はやがて黒くなり、幼生になって卵囊の先端の穴から泳ぎだします。水面近くを泳ぐ幼生は丸っこくて、肉眼でもよくわかります。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ニガキの花が満開になりました(5/6)。花は黄緑で目立ちませんが、よく見るとたくさん咲いている様子がわかります。蜜が取りやすいのか、毎年、ハチやアブがたくさん来ます。
- ・三角池に網を入れました(5/27)。ヌカエビの抱卵個体が捕れました。毎年、確実に世代をつないでいるようです。
- ・朝から、自然観察園の斜面林でホトトギスの声が聞こえていました(6/3)。昼ごろには、谷を飛ぶ姿を見ました。背景が空なので黒い姿でしたが、スタイルが特徴的なのでよくわかりました。
- ・去年生れと思われる小柄な若タヌキが人目もはばからずに日中から出没しています(6/18)。この日は湿地の泥に顔をつっこんで、ザリガニを捕まえているようでした。捕まえてはあぜに上がり、ぼりぼり食べていました。

◆ふれあい農園より

- ・田植え時期のふれあい農園の田んぼにコチドリが来ていました(5/21)。まだ田植えもしていない、代掻きだけの平らな泥はいい餌場らしく、コチドリのほかにカルガモも餌を探していました。ツバメも飛び交っていました。
- ・植えられたばかりの稲の間を、アジアイトトンボがすいすい飛んでいました(5/21)。

◆中山より

- ・小学校の校庭のムクロジに、つぼみがたくさんついていました(6/6)。去年の実もかなり残っていました。

◆じゅんさい池緑地より

- ・ハンゲショウの花穂が伸びてつぼみがふくらんでいました(6/14)。それに合わせて何枚かの葉っぱが白くなりました。

◆市川より

- ・小学校のプールで捕れたヤゴを見せてもらったら、ギンヤンマがたくさんでした(6/14)。その日にトンボになったヤゴもいました。

◆江戸川より

- ・稲荷木の堤防の上で、チョウゲンボウを見つけました(6/10)。風が強い日だったので、風を受けて空中で静止しているようにしていました。

◆江戸川放水路より

- ・干潟にはカニに混じってトビハゼがずいぶん見られました(6/9)。近づくときヨシ原にピョンピョンと逃げ込んでいきました。巣穴もありました。
- ・捕れたいろいろなカニの中に、クシテガニが入っていました(6/24)。赤いハサミがきれいでした。

◆行徳鳥獣保護区より

- ・行徳野鳥観察舎の周りには、実のなる木がいろいろと植えられています。大きなヤマモモの木には、ルビー色の丸い実がたくさんなっていました(6/10)。

以上 金子謙一(自然博物館)

梅雨入りは6月7日で平年並み、しっかりと雨が降った日がありました。5月から真夏のような暑さと日射しの日もありました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。
おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

| | |
|-----|-------|
| 日にち | 受付開始日 |
|-----|-------|

| | |
|--------|---------|
| 9月10日⑩ | 8月19日より |
|--------|---------|

お申込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 9月2日⑩、10月7日⑩、11月4日⑩、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

| テーマ | 日時 | 集合場所 |
|----------|---------------------|---------------|
| 初秋の江戸川土手 | 9月17日⑩午前10時～11時30分 | 里見公園正門 午前10時 |
| 秋の田んぼ | 10月15日⑩午前10時～11時30分 | 動物園券売所前 午前10時 |

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。

(雨天中止)

- ・日時 9月24日⑩、10月29日⑩、11月26日⑩、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いして下さいますか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 9月3日⑩、10月8日⑩、11月5日⑩
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第29巻 第3号 (通巻第171号)

平成29年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801 千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku/>